

令和 4 年度

事業所名： 一戸町高齢者グループホーム

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0373200328		
法人名	株式会社結愛サービス公社		
事業所名	一戸町高齢者グループホーム		
所在地	〒028-5312 岩手県二戸郡一戸町一戸字田中72番地1		
自己評価作成日	令和4年8月15日	評価結果市町村受理日	令和4年10月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は一戸町の中心部から東の方角に位置している。一戸駅より、徒歩で16分、車で5分と交通の便が良く、県立一戸病院・一戸町保健センターに隣接しており、福祉・保健・医療の連携が取りやすい環境にあるが、周辺に民家が少なく隣接の特養等と交流を行っている。当グループホームでは、利用者お一人お一人に役割を持っていただくため掃除、食事の準備、買い物、草取り等を職員と一緒にやっている。食事の献立は利用者のリクエストを献立に盛り込めるよう工夫している。新型コロナウイルス感染症流行以前は、利用者の意見を聞き外出行事を企画し全員で外出していた。また、その他に地域の保育園との交流会、地域公民館で行われている認知症カフェなどと会にも参加し地域の方との交流も継続的に行い、利用者を楽しんで生活して頂けるよう取り組んでいた。新型コロナウイルス感染症終息後は、ドライブや野外でのバーベキューを再開したいと考えている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

県立一戸病院や町健康福祉課、地域包括支援センター等の行政機関が隣接しており、日常的に相互の連携が図られている。困難を抱えている方々をフォローするセーフティネット的な役割を果たす役割を期待されて設立されたグループホームであり、第三セクターの運営であることも、家族の安心感につながっている。また、法人が運営する特別養護老人ホームが併設されており、日常的な利用者の散歩を通じた交流のみならず、災害対策も一体的に取り組むなど、機能面での連携も確立されている。今日、利用者の外出や面会などの制約がある中において、家族とのテレビ電話を活用した面会も行われ、また、3年ぶりに開催した一戸祭りのDVD等を提供していただくなど、家族との関りはコロナ禍にあって一層深まっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年9月6日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : 一戸町高齢者グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼にて経営理念と行動指針を唱和している。また、月曜の朝礼では町民憲章を唱和し、町民の為に作られた施設であることを意識するよう努めている。 (上司の不在時でも継続して行うよう指示している)	法人の経営理念は、設立時に職員がどの事業所にも共通のものとして作成した。毎朝礼時に5項目の行動指針と併せて唱和し、周知、実践に努めている。また、町民憲章についても月1回唱和し、職員で共有する機会を設けている。職員は、一人一人年間目標を設定し支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症対策により、地域住民との交流は見合わせている。	コロナ禍前は、日常的に買い物や行事等で頻繁に地域とのお付き合いがあったが、コロナ禍により、事業所周辺の散歩や同一建物にある特別養護老人ホームに出向き、利用者や職員と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策により、地区公民館活動への参加を中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策により、書面開催を継続している。 通常開催が再開された際には、さらに地域の方々にも参加を呼びかけ意見交換を行いたい。	町健康福祉課、地域包括支援センター、町社会福祉協議会の職員や利用者、家族代表、地域住民代表を委員とし2か月に1回、現在は書面での開催としている。利用者の状況や活動内容等を会議資料として送付し、質問や意見を伺っているが、これまで具体的な意見、質問はない。	運営推進委員へ配布する会議資料には、広報誌を含めるなどして詳細な情報を提供するとともに、事業所運営への活用を期待し、テーマを絞って意見、アイデアを求めることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	一戸町総合福祉センターと隣接しており、健康福祉課及び社会福祉協議会の関係者とも協力体制が取れている。また、運営推進委員会にも協力していただきたい。	地域包括支援センターや町健康福祉課、町社会福祉協議会が隣接し、常に連携が取れている。生活保護受給者が2名おり、広域振興局とも連携を取りながら利用者支援に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロへを掲げ、定期的に身体拘束廃止検討委員会を開き、「身体拘束ゼロへの手引き」に基づき勉強会を行っている。 玄関等の鍵は防犯上、夜間や外出で不在時に限り施錠している。	介護職員や看護師、計画担当者、相談員を委員とした、特別養護老人ホームと合同の身体拘束検討委員会を毎月の職員会議後に現状の報告と勉強会を兼ねて開催している。スピーチロックについては、受け止める利用者の表情や態度の変化を細やかに観察し、職員の声のトーンや感情のコントロールも含め、相互に注意喚起している。離床センサー使用者は2名いる。	

事業所名 : 一戸町高齢者グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的に職員同士で声を掛け合い、自身のケアについて振り返るよう意識付けしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体での研修に参加している。参加できない職員に対しては資料を配布し、理解を深めるよう工夫している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設の概要や利用に際してのメリット、デメリット等について、丁寧な説明を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルス感染症対策により、直接面会ではなく電話でご意見やご要望を聞く機会を増やしている。いただいたご意見ご要望は、朝礼や職員会議等で職員に伝えている。また、運営推進委員会を活用し、外部者へ伝わるよう工夫している。	利用者の通院は家族が対応しており、来所時にホームでの様子を伝え、家族から意見や要望を伺うよう努めている。職員による通院付き添いの希望や面会の開始時期、職員の接遇や言葉遣い等についての意見をいただくことがある。家族意見の内容や留意点については、朝礼や職員会議で周知している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員用の意見箱(社長直通)の活用、社長や管理者との直接面談を行っている。感情的な不満でなく、建設的な意見を意見を求め、業務改善や労働環境の改善に反映させている。	職員用の社長宛の意見箱を設置し、また、社長との面談を年1回、管理者とは年2回設ける等して、話しやすい職場環境作りに努めている。夜勤回数や休暇の調整等の勤務条件に関する要望にも出来るだけ対応するようにしており、必要に応じ社長との協議を行いながら速やかな対応に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の推奨(資格取得後の補助金制度)と昇給制度の充実。自己評価を最大限に反映させた賞与支給など、労働環境の向上に努めている。		

事業所名 : 一戸町高齢者グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら維持向上が出来るよう、介護キャリア段位制度に基づいた社内認定制度をOJTとして実施している。社外研修に参加する機会も設けるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染症のため、交流会する機会が失われている。再開した際には、積極的に参加したい。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	声にならない本人の想いにおいても、日々表情などを観察し共有していけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に想定できるリスク面も含め、ご家族と共有するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査からの情報を職員へ発信し、計画作成担当者を中心として、利用者様に必要な支援を職員で共有しご本人が安心して生活が始めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、本人の考え方などを確認し、本人が前向きな気持ちで生活できるよう声掛け、支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の普段の様子を伝える際に、ご家族からのご意見やご要望についても聞き取るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症対策により、面会制限を継続しているが、オンライン面会やガラス越し面会を実施している。また、隣接する特養へ訪問し余暇活動等を行い、新たな関係作りに努めている。	家族は、利用者の通院や季節に応じた衣類、寝具の入替えの際に来所している例が多い。また、お墓参りに家族と外出する利用者もおり、交流は継続されている。利用者は、祭りや孫の発表会のDVDを鑑賞し、その情景を思い出しながら楽しんでいる。特別養護老人ホームの利用者や職員、毎週訪れる床屋さんとは馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の相性もあり、同じテーブルで過ごせない方もいるが、レクリエーションなどで一緒に関わり合ったり、少しでも楽しく過ごせる機会を作り出せるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退所された方でも、今後の生活について丁寧に相談を受け対応してきた。今後も継続していきたい。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の想いを日々表情などを観察し、チームで共有していけるよう努めている。具体的には、ケア会議において、センター方式C-1-2で職員同士共有するよう努めている。	殆どの利用者は、自分の意向や思いを伝えることができるため、散歩や入浴時などの1対1での対応時に話しやすい雰囲気づくりに努め、意向を引き出している。言葉での表現が難しい利用者は表情や態度等を観察し、意向の把握に努めている。得られた思いや意向は、職員会議や朝礼で共有するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族との面接時に情報収集を行っている。また、本人の生活については、入所後も主にご家族を通じて把握していけるよう関係作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録にその日の出来事や行動、言動などを記録し、全職員がいつでも閲覧確認できるようにしている。		

事業所名 : 一戸町高齢者グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人一人に担当職員がつき、センター方式(C-1-2)を用いて、計画作成担当者と共有しながら一緒にプランを作成している。 作成されているプランをチームとして共有することが今後の課題である。	モニタリングは毎月行い、6か月に1回の見直しを基本としている。計画作成担当者が居室担当者と相談し原案を作成の上、加えてケアマネ、介護職員のほか、状況に応じて利用者本人参加のもと、月1回ケア会議を開催し、プランの変更や更新について協議している。「これまで出来ていた調理や片付け等を続けさせてほしい、通院が続けられるよう歩行訓練を続けてほしい」等の利用者や家族の要望を取り入れた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活状況、想い、変化、言動を個人チャートに記録している。職員が考えて行動できるようにケアマネが工夫してケア会議を主催し、計画を見直し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要時には隣接する特養に協力を求めている。 具体的には、福祉用具等を活用している。 (実例)福祉用具を活用し、少しでもリスクを減らす工夫により、早期の退院へ繋げることができた実例が5月にあった。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣にある、公園内を散歩。スーパーへの買い物、病院受診、外出など活用可能な地域資源を有効に活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎回、受診情報提供書を作成し医療機関への情報提供を行っている。また、お薬調整時などは、職員も同行し直接情報提供等を行っている。	家族同行での受診を基本とし、受診情報提供書を託している。隣接の一戸病院をかかりつけ医としている利用者が多いが、これまで通り個人クリニックをかかりつけ医としている利用者もいる。 精神科、眼科等の専門医の受診や新型コロナウイルスワクチン接種も家族の対応としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の特養の看護師が毎日訪問し様子伺いをしている。日中・夜間共にナース連絡は可能であり、相談も行い安心して生活が送れるように協力体制を継続している。		

事業所名 : 一戸町高齢者グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には、より密に連絡を取り素早い対応を心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化における対応指針に基づいて、契約時に丁寧な説明を行い、同意を得ている。また、法人内の看護部門の協力において、定期的な訪問を行っており日頃から協力体制がとれている。	重度化における対応指針を作成し、それに沿って入居時に説明し同意を得ている。重度化した場合には、家族や利用者の意向に沿って対応することとしている。看取りの実績が少ないこともあり、今後に向けて、医師の協力体制や職員の研修が課題となっている。利用者の状態の変化に応じ、法人内の各事業所の支援内容を紹介し、家族の不安解消につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急講習・感染処理対応研修を社内研修にて実践。会議でも事故発生時の状況などを話し合い対策や対応について確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	結愛サービス公社や健康福祉課の協力のもと合同の避難訓練を開催、災害時にも協力体制を取り取り組んでいる。また、事業所独自に土砂災害を想定した訓練(図上)を行っている。	年2回、法人の支援の下、健康福祉課の協力も得て通報訓練や図上訓練等を行っている。土砂災害想定訓練を11月に予定している。ハザードマップ上で土砂災害地域に指定されているため、町が中心となって避難場所等を検討している。特別養護老人ホームとは、発電機や食料等の備蓄や夜間を含めた災害時の協力体制も確立されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全員個室対応、トイレ・洗面台を設置しておりプライバシー確保に努めている。また、個人情報パソコン及び施錠できるロッカーに保存・保管している。	一人一人の利用者の表情や態度を観察して意向の把握に努めており、併せて、利用者に理解してもらえようゆっくり話すよう心掛けている。個人情報に関する書類等は、鍵付き保管庫で管理し、広報誌等への掲載についても同意をいただいている。トイレ誘導や失禁時にはプライドを傷つけないように配慮している。	

事業所名 : 一戸町高齢者グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活会話から希望や要望も引き出すように職員に働きかけている。献立のリクエスト食や外出先も利用者からの意向を引き出した中から企画に結びつけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を話しやすい雰囲気づくりや、時間を持てるようにしている。また、散歩や入浴など個別に対応できる機会には、さらに普段聞かれない会話があるため、大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合ったもの。本人に馴染みのあるものなど衣類の準備をしている。ご家族の協力で自宅から馴染みの衣類などを持参していただき、衣替えを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立にリクエスト食を週一回のペースで取り入れている。また、ご家族や地域の方々からの差し入れがあった場合など、利用者と相談して柔軟に献立を変更している。	事業所内の自家菜園で野菜やりんご、桃などを育てている。収穫から調理まで携わることで利用者の生き甲斐にもつながっており、菜園で収穫した食材を食卓に上げられるよう献立は柔軟に変更している。雛祭りや花見弁当、夏の流しそうめん、流し果物等の行事食は好評で、季節の行事とともに楽しんで食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	なるべく季節に合った献立を取り入れるよう工夫している。献立表は栄養士に見ていただきアドバイスをもらっている。主食量も個々に合わせ計量し提供。水分量も個々に合わせ提供し健康管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けや確認を行い口腔内が清潔に保てるように支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	テープ止めオムツを使用している方はおらず、可能な限りトイレでの排泄を促し、普通下着(布パンツ)で生活されている。※リハビリパンツ2名。	自立者が4名、一部介助者が5名で、全員が自室のトイレを利用している。オムツ利用者はいない。ほとんどの方が自身で尿意を覚えてトイレに立っているが、3名の利用者は、排泄チェック表を活用して誘導している。夜間も利用者全員が居室のトイレを利用している。	



事業所名 : 一戸町高齢者グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録を行い個々に合わせた無排便日数によりセンナ茶を飲用。運動確保の為毎日の散歩や、起床時の水分補給(牛乳や飲むヨーグルトなど)飲用していただき、自然排便ができるよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日おきに週2回を基本として入浴してもらうよう工夫している。本人の状態や希望で入浴日を変更する場合にも対応している。湯加減、入浴時間等も可能な限り対応できるよう工夫している。今後、プライバシー保護のため脱衣場入口に暖簾をつけるなどの工夫をしたい。	入浴は、週2回を基本としている。個々の希望で入浴日を変更したり、夏場に汗をかいた時や足浴を希望する利用者のために毎日お風呂のお湯は沸かし、季節に合わせて柚子湯、菖蒲湯等も提供している。利用者は、ゆっくり入浴しながら歌を歌ったり職員との会話を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣に合わせた格好で休んでいただく。就寝時間も個々に合わせ就寝。起床もそれぞれに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも、誰でも薬の内容を確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に残存機能を考慮し、役割を見つけプランに繁栄できるようにしている。又、職員も声を掛けながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩に出かけている。新型コロナウイルス対策により、(コロナ禍)以前のような外出支援については控えている。	コロナ禍のため、食材等の買い物に利用者が出られないため、隣接の公園やスーパー付近まで散歩に出かけることができるよう支援している。今年は、3年ぶりに開催された町内のお祭りをドライブを兼ね車内から見学することができた。利用者は久しぶりの外出だったことと懐かしさもあって、感激していた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時に預り金管理規定を説明し、現在は全員活用されている。金銭の管理は公社総務部にて管理し、定期的にご家族へ報告している。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 一戸町高齢者グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的な電話、オンライン通話を実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、談話室が居室に繋がったフロアとなっており天井も高く開放的な空間となっている。談話室にはこたつも配置しホールにはソファを配置しくつろげるように工夫している。また、四季折々の飾りつけを行うよう工夫している。	天井が高く広い空間のホールには、テーブルやソファ、椅子、テレビが配置され、こたつを置いた小上がりは、家庭的な雰囲気がある。日中は、ほとんどの利用者が思い思いの場所で過ごしている。ホール、玄関には、利用者が制作した作品、編み物等が展示されている。エアコン2機と床暖房で空調を管理しており、快適な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の相性に配慮しホールでの席を検討している。職員も間に入ったりし利用者様の表情を見て心地よい居場所を作るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様やご家族の意向を優先にしている。家具の持ち込みも可能となっているが持ち込みの方は少ない。馴染みのものは、身につけるものを持ち込み方が多い。箸や湯飲みコップ、お茶碗は持ち込みしている。	居室には、ベッドやタンス、洗面台、トイレが設置されている。自宅で使い慣れた箸や湯飲み茶わん等の生活用品類、寝具、衣装ケースの他、位牌、杖、シルバーカー等を持ち込んでいる利用者もあり、何れも過ごしやすい居室としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリー作りで段差はなく廊下には手すりを設置している。洗面台も高さ調整が可能となっており個々に合わせた利用が可能となっている。		